

読む・百人一首 037

文屋朝康

白露に

風の吹きしく

秋の野は

つらぬきとめぬ

玉ぞ散りける

しらつゆに

かぜのふきしく

あきのは

つらぬきとめぬ

たまぞちりける

読む・百人一首 038

右近

忘らるる

身をば思はず

ちかひてし

人の命の

惜しくもあるかな

わすらるる

みをばおもはず

ちかひてし

ひとのいのちの

をしくもあるかな